準師範試験実施要項

▽第六十三次漢字部・かな部課題

○漢字部　次の作品二点**（何れも半切35㎝×135㎝に揮毫）**を提出する。

・規　定《書体　行草書》

春酒玉堂天上夢　清明游子故郷心　（袁枚）

読＝春酒玉堂天上の夢　清明游子故郷の心

註＝立派な御殿で春酒を飲むと天上界で夢を見ているようであり、清明の時節の旅人は故郷のことばかり思っている。●玉堂＝美しい御殿。●清明＝春分から一五日目で、今の四月五、六日頃。●游子＝旅人。

・臨　書　貫名菘翁「崔子玉座右銘」　五字

無道人之短

読＝人の短を道うこと無れ

○かな部　次の作品二点**（半切35㎝×135㎝に揮毫）**を提出する。

・規　定《書体自由》

天つ風雲の通ひ路吹きとぢよ　をとめの姿しばしとどめむ

註＝空吹く風よ、天女のゆきかう雲間の道を吹き閉ざしておくれ。舞い終わって天に帰ってしまうこの美しい天女たちの姿を、もう暫くこの地上にとどめておきたいと思うから。

・臨　書　関戸本古今集（伝　藤原行成）

あまのはらふりさけみればかすがなるみかさのやまにいでしつきかも

能 不 介 盤 須 可 奈 美 可 尓 徒 支 可 无

▽第三十三次詩文書部課題

次の作品二点**（何れも半切35㎝×135㎝に揮毫）**を提出。**※形式は縦作品に限る。**

・規　定**《原文を尊重すること》**

空も星もさみどり月夜春めきぬ　（渡辺水巴）

註＝「春めく」物の芽が出て山の木々も芽吹きの季節。「さみどり月夜」は作者の造語だが、美しく、春の息吹が充分に感じられる。万物が春めいているのである。

・臨　書　鄭文公下碑（鄭道昭）　五字

常慕晏平仲

読＝常に晏平仲を慕ふ

― 受験についての注意 ―

一、**受験資格**　漢字・かな・詩文書とも**六段。**かつ**満十八才以上**で**『日本書道院展出品経験者』（二〇〇一年四月一日生まれまで認める）。**

一、**受　験　料**　**六千円（漢字・かな・詩文書の別）**受験料は作品と別封とし、郵便振替にて同時に本院宛に送付のこと。

一、日本書道院展に一回以上出品の者（部門不問）。第67回展出品も可。

一、〆　**切**　**四月二十日**　発表六月号

一、作品には**申請書に貼付の出品票を使用して六段になった年月**（日本書道誌発表の月）を必ず記入して添付すること。又、作品の左下隅にも同じく鉛筆で段位・支部名・氏名を記入のこと。

一、不合格者（規定違反も同じ）はその氏名を発表しない。

一、受験作品は白画仙紙を用い、準師範受験申請書を作品と共に提出のこと。また、封書には必ず**「準師範応募」と朱書**のこと。

一、準師範受験申請書は、返信料八十二円切手を添えて本部へ請求のこと。

一、提出した作品は一切返却しない。

◎月刊「日本書道」四月号に添付の『出品一覧表』に記入の上出品のこと。

◎出品作品には雅印押印のこと。

◎師範受験時には日本書道院展出品が二回以上必要となる。受験の際は注意すること。

▼第五次硬筆部準師範課題

・規　定

天の原ふりさけ見れば春日なる三笠の山に出でし月かも

註＝大空をはるかに眺めやると、今しも東の空に美しい月が昇っている。あゝこの月はその昔、故郷の春日にある三笠の山に出たあの月なのだなぁ！

・臨　書　蘭亭序（王羲之）　十六字

激湍、映帯左右。引以為流觴曲水、列坐其。

読＝激湍（有りて、）左右に映帯す。引きて以て流觴の曲水と為し、其の

註＝早瀬があり、辺りに照り映えている。それを引き込んで流觴の曲水を作り、人々が（順次並んで）座った。

一、**受験資格　六段**

一、**受　験　料　四千円**

準師範受験申請書は、返信料八十二円切手を添えて本部へ請求のこと。

一、〆　**切**　**四月二十日**　発表六月号

一、作品には**申請書に貼付の出品票を使用して六段になった年月**（日本書道誌発表の月）を必ず記入して添付すること。また、封書には必ず**「準師範応募」と朱書**のこと。

◎月刊「日本書道」四月号に添付の『出品一覧表』に記入の上出品のこと。

昇段・級試験実施要項

▽第一二二回漢字部・かな部課題

○第一部［半切35㎝×135㎝］

次の漢字又はかな（各書体自由）を縦に揮毫したもの一点を提出。

漢字部

千里鶯啼緑映紅　水村山郭酒旗風　（杜牧）

読＝千里（せんり）鶯（うぐいす）啼（な）いて　緑紅（みどりくれない）に映（えい）ず　水村山郭（すいそんさんかく）　酒旗（しゅき）の風（かぜ）

註＝見渡す限りの江南一帯の地には、どこへ行っても鶯が鳴き、木々の緑と花の紅が照り映えて美しく、水辺の村や山辺の村里には、のどかに酒屋の幟がはためいている。

かな部

これやこの行くも帰るも別れては知るも知らぬも逢坂の関　（蝉丸）

註＝これがあの、行く人も帰る人も別れては、また一方で知る人も知らない人も逢う（という）逢坂の関なのだなぁ！

一、**受験資格**　漢字・かなとも二級以上のもの

一、**受験料**　一点につき　三千円。成績により六段以下の相当級に編入する。

㊟漢字・かな受験者の事情により昇段試験の課題（漢字・かな）を半切1―2（35㎝×68㎝）に二点（形式を変えるか縦・横にする）揮毫しても受験することができる。但し、現在二級・一級・初段・二段の者は一点でもよい。

○第二部［半紙］次の漢字（楷書）又はかな（書体自由）を半紙に揮毫したもの一点

・漢字部

業在硯田

読＝ぎょうはけんでんにあり

註＝硯を田にみたて、それを耕すしごとのひと。唐庚の詩に「硯田に悪歳無く、酒国に長春有り」とある。

・かな部

菫程（すみれほど）な小さき人に生（う）れたし　（夏目漱石）

註＝「菫」すみれ程の小さな人に生れたいという願望には、漱石の現実嫌悪、人間嫌悪の情が感じられるが、すみれの例えには美しい夢があるようだ。

一、**受験資格**　漢字・かなとも二級以下のもの〔漢字作品には支部名・段級・氏名（号）を競書と同じく筆によって揮毫する。かなの場合は名（号）又は雅印を捺した上に、左下隅にも鉛筆で段級と支部名、姓号を記入する。〕

一、**受験料**　一点につき、千円。成績により一級以下の相当級に編入する。

▽第三十三回詩文書部課題

○第一部［半切］次の俳句（**原文を尊重すること**）半切35㎝×135㎝に揮毫したもの一点

※形式は縦作品に限る。

・春（はる）たつや静（しず）かに鶴（つる）の一歩（いっぽ）より　（黒柳召波）

註＝「春たつ」暖かい日差しに鶴が端麗な一歩を踏み出した。その一歩から春が立ち染めるようである、の意。

一、**受験資格**　二級以上のもの

一、**受験料**　一点につき、三千円。成績により六段以下の相当級に編入する

㊟詩文書受験者の事情により昇段試験の課題を半切1―2（35㎝×68㎝）に二点（形式を変えるか縦・横にする）揮毫しても受験することができる。但し、現在二級・一級・初段・二段の者は一点でもよい。

○第二部［半紙］次の俳句（**原文を尊重すること**）を半紙に揮毫したもの一点

※形式は縦作品に限る。

・菜の花（な）といふ平凡（へいぼん）を愛（あい）しけり　（富安風生）

註＝「菜の花」菜の花は、平凡ながら、明るく清潔な感じがする。作者は菜の花を愛しながら、また人もかくありたいと念願しているのである。

一、**受験資格**　二級以下のもの

一、**受験料**　一点につき、千円。成績により一級以下の相当級に編入する

―出品についての注意―

一、**〆切　四月二十日**　発表六月号

一、作品には**四月号発表**の競書成績の段級と支部名又は府県名、氏名又は号を書いた小票（たて11センチ×よこ4センチ・競書用出品券使用可）を作品の左下に貼付する。又作品左下隅にも同じく**鉛筆**で段級・支部名・氏名を記入のこと。**【級のないものは新とすること】**

一、一級以上のものは第一部［半切］へ出品のこと。

一、各部で昇級できなかったものは氏名を発表しない。（規定違反も同じ）

一、昇級試験の作品は競書作品と別にし、必ず封書に**「昇試」**と朱書する。

一、受験料は郵便振替にて作品と同時に送付のこと。

一、提出した作品は一切返却しない。

◎月刊「日本書道」四月号に添付の『出品一覧表』に記入の上出品のこと。

◎出品作品には雅印押印の習慣をつけること。

硬筆部・昇段・級試験実施要項

▼第七回

○**応用部**　次の課題を【**硬筆用紙**】に書いたもの一点

・**鶯に朝寒からぬ京の山おち椿ふむ人むつまじき（与謝野晶子）**

註＝鶯の声が聞えてくる。もう朝も寒くはないこの京都の山の道を、落ちている椿の花を踏んでそぞろ歩きをする人の何と睦まじい事よ。

一、**受験資格**　一級以上のもの　作品には支部名・段級・氏名（号）を競書と同じく硬筆用紙に書く

一、**受 験 料**　一点につき、二千円。成績により六段以下の相当級に編入する。

○**基礎部**　次の課題を【**硬筆用紙**】に書いたもの一点。

・**土の上に白き線引きて日暮れまで子どもの遊ぶ春となりけり（島木赤彦）**

註＝土の上に白い線を引いて、日の暮れるまで子どもたちの遊び続ける、日永の春になったことだ。

一、**受験資格**　二級以下のもの　作品には支部名・級・氏名（号）を競書と同じく硬筆用紙に書く

一、**受 験 料**　一点につき、千円。成績により一級以下の相当級に編入する。

―出品についての注意―

一、**〆切　四月二十日**　発表六月号

一、作品には**四月号発表**の競書成績の段級と支部名又は府県名、氏名又は号を書いた硬筆用紙に記入し、硬筆用紙内の（　）内に**「昇試」**と朱書する。**【級のないものは新とすること】**

一、一級以上のものは応用部へ出品のこと。

一、各部で昇級できなかったものは氏名を発表しない（規定違反も同じ）。

一、昇級試験の作品は競書作品と別にし、必ず封書に**「昇試」**と朱書する。

一、受験料は振替・小為替、又は現金書留で作品と同時に送付のこと。

一、提出した作品は一切返却しない。

◎月刊「日本書道」四月号に添付の『出品一覧表』に記入の上出品のこと。

書道講演会　開催のご案内

全日本書道連盟主催「平成２９年書道講演会」を、下記の通り開催いたします。
多くの方に聴講賜りたくご案内申し上げます。

記

日　　時	平成 29 年 11 月 15 日（水）午後２時～３時半
会　　場	国立新美術館　３階講堂（東京都港区六本木） 東京メトロ千代田線「乃木坂駅」６番出口に直結 当日は同美術館で、改組新第４回日展開催中です。
演　　題	「中日文化交流最新情報」
講　　師	中華人民共和国駐日本国大使館　文化担当参事官　陳諍　氏
定　　員	２６０名（聴講無料）

聴講ご希望の方は連盟事務局まで、電話／ＦＡＸ／メールでお申し込みください。
どなたでも聴講できますので、ご関係の方々にご紹介くださるようお願いいたします。

申込先 連盟事務局　電　話 03-5294-1371（月～金曜　10：00 ～ 18：00）
ＦＡＸ 03-5294-1372（24 時間受信）
メール zsr@shoren.jp

以上